

平成 17 年国勢調査

従業地・通学地集計 その 2(香川県分)

「平成 17 年国勢調査」における「従業地・通学地集計(その 2)」が、平成 20 年 4 月 30 日に総務省統計局から公表されました。この集計は、従業地による就業者の職業別の構成などを集計したものです。

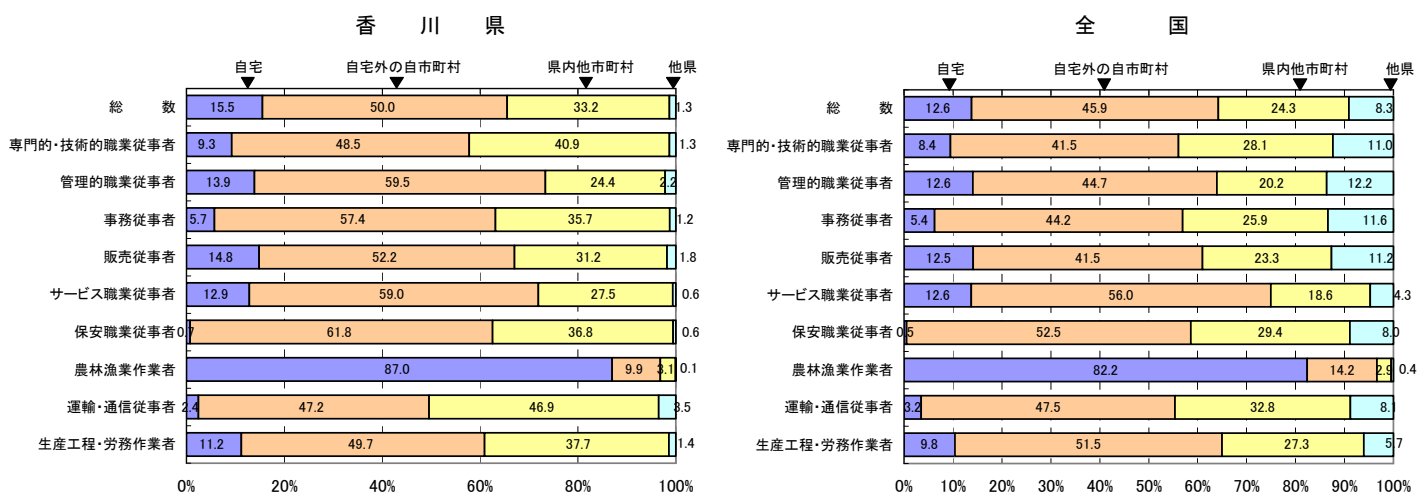
1. 従業地別就業者数

- 香川県の 15 歳以上就業者 490,775 人を従業地別にみると、「自宅」が 76,253 人(15 歳以上就業者全体の 15.5%)、「自宅外の自市区町村」が 245,211 人(同 50.0%)、「県内他市区町村」が 162,808 人(同 33.2%)、「他県」が 6,503 人(同 1.3%)となっており、「自宅外の自市区町村」が最も多い。
- 全国平均と比べると「自市区町村」及び「県内他市区町村」で従業する割合が高く、「他県」の割合が低くなっている。

2. 職業大分類、従業地別就業者数

- 職業大分類別に就業者の従業地別の割合をみると、次のようになっている。
 - 「自宅」の割合が高いのは「農林漁業作業員」(87.0%)であり、次いで「販売従事者」(14.8%)、「管理的職業従事者」(13.9%)などとなっている。
 - 「自宅外の自市区町村」の割合が高いのは「保安職業従事者」(61.8%)であり、次いで「管理的職業従事者」(59.5%)、「サービス職業従事者」(59.0%)などとなっている。
 - 「県内他市区町村」の割合が高いのは「運輸・通信従事者」(46.9%)であり、次いで「専門的・技術的職業従事者」(40.9%)、「生産工程・労務作業員」(37.7%)などとなっている。
 - 「他県」の割合が高いのは「運輸・通信従事者」(3.5%)であり、次いで「管理的職業従事者」(2.2%)、「販売従事者」(1.8%)などとなっている。
- 全国平均と比較すると、「管理的職業従事者」、「事務従事者」などでは、「自宅外の自市区町村」の割合が高くなっており、「運輸・通信従事者」、「専門的・技術的職業従事者」などでは、「県内他市区町村」の割合が高くなっている。また、すべての職業大分類で「他県」で就業する割合が低くなっている。

図 職業(大分類)、従業地別 15 歳以上就業者の割合(香川県・全国)



[別表 職業\(大分類\)別、従業地別 15 歳以上就業者数—平成 17 年\(香川県、全国\)](#)

その他の統計表はこちら <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2005/index.htm>